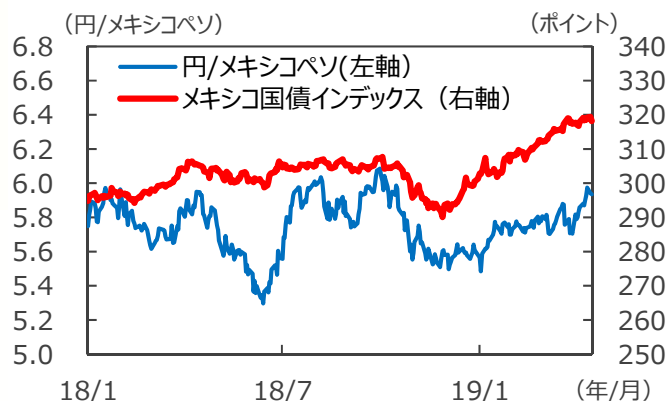


今日のトピック 堅調続くメキシコ国債（2019年4月） 米金融政策の転換で新興国への資金流入が継続

ポイント1 堅調続くメキシコ国債

- 2019年に入りメキシコ国債は堅調に推移しています。1月以降、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融引き締め姿勢が後退し、3月には年内の利上げを見送ることが明確になったことなどから投資家のリスク選好度が高まり、新興国に資金が流入していることが背景とみられます。
- 欧州中央銀行（ECB）も緩和的な金融政策を強化するなど、各国中銀が景気に配慮した金融政策にシフトし、適温相場の様相となったため、リスクをとりやすい環境になっています。その中で、新興国などの利回りの高い債券が注目されています。

【為替とメキシコ国債インデックスの推移】

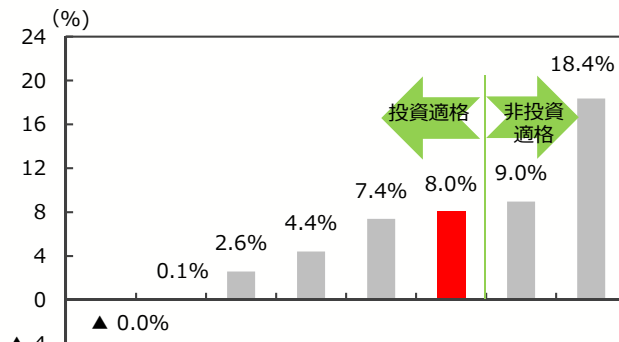


(注) データは2018年1月2日～2019年4月16日。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 新興国の中では安定的 高水準の利回りが注目される

- メキシコは新興国の中でも政治や経済、為替が安定的です。信用格付け（現地通貨建長期債務格付け）はS&P、Moody'sでそれぞれA-、A3と高いにも関わらず、現地通貨建ての長期国債利回りは8%台と高水準にあります。金融政策は、足許のインフレ率は落ち着いていますが、最低賃金引き上げなどを受け、政策金利を8.25%に据え置くとみられます。
- 為替も底堅い推移が予想されます。年初から4月16日までのメキシコペソは、円、米ドルに対し各々6.3%、4.1%上昇しました。

【各国の金利水準（10年国債利回り）】



(注1) データは2019年4月16日現在。
(注2) 格付けはS&Pグローバル・レーティング（S&P）、ムーディーズ・インベスターズ・サービス（Moody's）の現地通貨建長期債務格付けのうち高い方をS&Pの表記で表示。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 新政権の政策運営には留意必要も、財政健全化姿勢はプラス要因

- 国営石油会社への財政支援が負担となっていますが、昨年12月、メキシコ政府は財政規律を重視する姿勢を示しており財政赤字は抑制される見込みです。市場のリスク選好度が高まり、新政権の経済政策に対する不透明感が後退すれば、メキシコ債券市場への資金流入が拡大することが期待されます。

* 三井住友アセットマネジメントと大和住銀投信投資顧問は4月1日に合併し、三井住友DSアセットマネジメントになりました。

ここも
チェック! 2019年4月3日 世界の「投信マネー」（2019年3月）「北米」、「新興国」の債券ファンドに集中
2019年3月6日 市川レポート「適温相場再来」

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。